

地震一口メモ No. 197

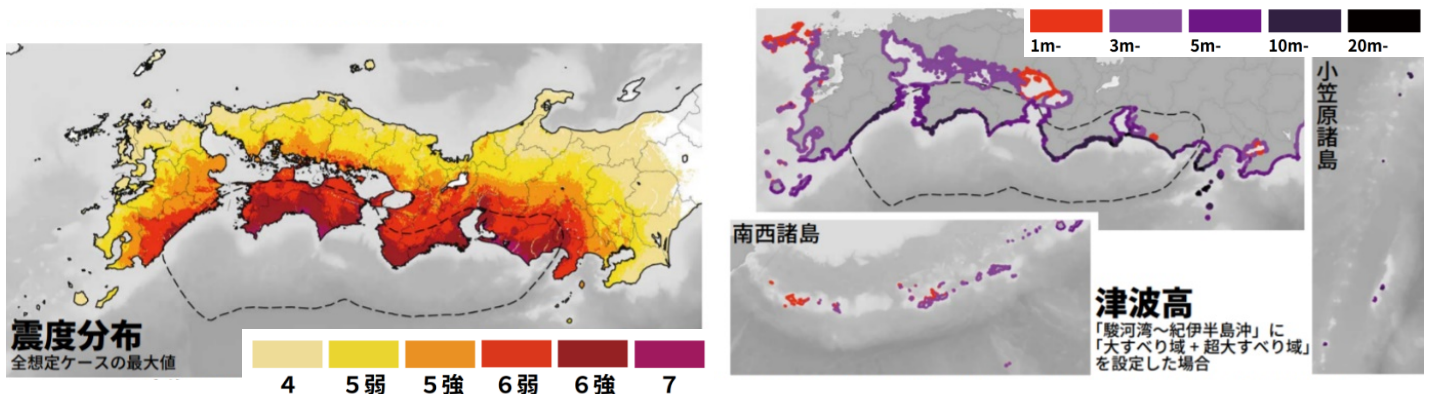
南海トラフ巨大地震に備える

最後の南海トラフ地震である昭和南海地震から今年で 75 年

南海トラフ地震は、駿河湾から日向灘沖にかけてのプレート境界を震源域として概ね 100~150 年の間隔で繰り返し発生してきた大規模地震です。もし発生すると大阪でも強い揺れと高い津波に襲われて大きな被害が出るのが想定されます（下図）。最後に起こった南海トラフ地震は、昭和東南海地震（1944 年）と昭和南海地震（1946 年）であり、それから今年で 75 年となります。昭和東南海地震と昭和南海地震はどちらも 12 月に起きたということで、この節目の年の 12 月に今一度南海トラフ地震について考えていただきたいと思います。

昭和の 2 つの南海トラフ地震は約 2 年の時間差をもって発生しました。まず、1944 年に東南海地震が起こり、南海トラフ巨大地震の想定震源域の東側が破壊されました。そして、1946 年の昭和南海地震で想定震源域の西側が破壊されました。南海トラフ地震はこのように時間差をもって発生することもあります。東側と西側が一度に破壊したこともあります。もし東側と西側が一度に破壊するような地震が発生すると、東日本大震災と同じような最大クラス（マグニチュード 9 程度）の地震の揺れと津波が発生し、大阪湾や瀬戸内海にもすぐに津波が来襲するおそれがあります。気象庁は、東日本大震災などの教訓を踏まえ、南海トラフ巨大地震が発生した場合には、最大級の津波想定に基づいて太平洋沿岸のみならず大阪湾や瀬戸内海へも津波がすぐに到達との警報を発表します。このため、直ちに避難する必要があります。

最後の地震から時間が経過していることもあり、南海トラフでマグニチュード 8 から 9 クラスの大規模地震が今後 30 年以内に発生する確率は 70 から 80% で、切迫性の高い状況だと評価されています。いつ起こっても大丈夫なように、想定される強い揺れと高い津波に備える必要があります。例えば、家具の固定や危険箇所の確認、避難場所を考えておくことなどがあります。南海トラフ地震はいつ起こるかわかりません。起こってしまった時に直ちに行動して、自らと大切な人の命を守るために今から備えておくことが大事です。



南海トラフ巨大地震の震度分布と津波高

「南海トラフ巨大地震対策検討ワーキンググループ」平成 25 年最終報告をもとに作成
(気象庁発行パンフレット「地震と津波」より)



大阪管区気象台 HP には南海トラフ地震特設ページがあります。
南海トラフ地震の基礎知識や気象庁が発表する各種情報など、
皆様の命を守るための行動につながる情報を紹介しています。

<https://www.data.jma.go.jp/osaka/jishinkazan/nankai/index.html>